

壁紙施工要領書
- 塗装用下地材 -

【該当品番】

(2023-2026WILL)

LWT-833・834 (裏打ち紙有)

■寒冷紗について

- ・寒冷紗は、麻、または綿で織った目の粗い織物です。(リリカラではレーヨン、ビニロンの平織を使用しています。)もともとは農作物を覆って霜よけや防寒、夏期の遮光栽培用として用いられていました。
- ・建築関係の用途としては、主にペンキ塗装の下地として使われており、特にベニヤ合板にペンキ塗装する際、これを貼ってその上から塗装すると、張り合わせ部分の目地が目立たなく、きれいに仕上がります。ほかに漆喰などの下地にも使うケースがあります。これは、引っ張り力による亀裂の防止、クラック防止に効果があるからです。

■下地調整

- ・塗装用の下地材です。塗装が前提となりますので、塗装後の不陸が目立たないように出来るだけ平滑に仕上げてください。
- ・下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
- ・接着性の悪い下地(ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など)には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙のハガレ、目開きを防ぎます。

■接着剤

- ・裏打ち紙無タイプは下地側に接着剤を塗布する向こう糊施工です。でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンドを混合してください。施工環境によりボンドの配合を変えて使用してください。

【壁紙施工要領書 - 塗装用下地材 - 】

- ・裏打ち紙有タイプの場合は一般の壁紙と同様に糊付け機の使用が可能です。でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度目安に混合してください。

■養生・オープンタイム

- ・裏打ち紙有タイプは、接着剤塗布後、うませ時間を10～15分程度、施工可能時間は30分以内を目安に作業を進めてください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワを防ぐためにも、大きくたたみ上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・裏打ち紙無タイプの場合、ジョイントの納めは重ね裁ち（ダブルカット）は避け、25～50mm程度重ね貼りしてください。（塗料の塗布量が少ないと、ジョイント部が目立ってしまうことがあります。）
- ・裏打ち紙有タイプの場合、石膏ボード下地等で重ね裁ち（ダブルカット）を行う場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因になります。（下地保護のために下敷きを入れる、などの対策をしてください。）
- ・商品自体の厚みが薄くジョイントが目立ちやすいため、カッターは薄刃のものを常に鋭利な状態で使用してください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。塗装後の変色の原因になります。

■施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。